

第6回 家計と暮らしに関する調査

当研究所では、地域内の世帯の消費に関する意識や行動を継続的に捉えるために、2003年より長崎市と佐世保市の市民に対し「家計と暮らしに関する調査」を毎年実施している。第6回目となる今回調査では、「現在の暮らしの満足度」が30歳代でわずかに改善がみられるものの高年齢世帯を中心に後退色が強く、全体としては悪化。また「家計支出」が増加傾向となっており、これは「食料品費」支出の急増などが要因と考えられる。

(注) 今回、世帯主の年齢が20歳代の世帯からの回答が少なかったため、年代別の分析において「20歳代」については参考値とし、言及しない。

【調査要領】

1. 調査対象 長崎市、佐世保市居住の500世帯
2. 調査方法 郵送によるアンケート
3. 調査期間 2008年5月中旬～下旬
4. 有効回答 412世帯（回答率82.4%）
5. 質問項目 暮らしに対する満足度 家計収支の推移 今後の暮らし向き
買い物の際に重視すること 将来に対する不安 等
6. 回答者の属性

世帯主の年代別	世帯	構成比(%)
20歳代	12	2.9
30歳代	53	12.9
40歳代	90	21.8
50歳代	113	27.4
60歳以上	144	35.0
合 計	412	100.0

世帯の年収別	世帯	構成比(%)
300万円未満	113	27.4
300～500万円未満	151	36.7
500～700万円未満	71	17.2
700～1,000万円未満	57	13.8
1,000万円以上	14	3.4
不明	6	1.5
合 計	412	100.0

【要 約】

- 暮らしの満足度DI（満足割合－不満割合）は前回の△2.0から今回△15.2と大幅に低下。年代別では30歳代でわずかに改善するも、50歳以上の年代ではDIの低下幅が大きい。
- 家計収入DI（増加割合－減少割合）は前回の△27.3から△28.9と、昨年の第5回調査に引き続いて前回調査比低下となった。また、先行きについても一段と慎重な見方。
- 家計支出DI（増加割合－減少割合）は大半の年代で上昇に転じ、前回比10.2ポイント上昇して50.7となった。先行きについても全ての年代で今回より上昇すると見込む。費目別にみると、食料品費が前回の14.4から40.9に大幅上昇、その他に上昇幅が大きい「水道光熱費」、「交通費」などとともに支出DI上昇の要因になっていると考えられる。また従来からDIが高い「保険・医療費」は今回39.0、上昇幅も5.4ポイントと引き続き家計を圧迫。一方、「レジャー・娯楽費」、「交際費・小遣い」などは抑制が続く。
- 今後の暮らし向きDI（良くなる割合－悪くなる割合）は前回の△49.1から△63.9と大幅に低下。
- 買い物の際に重視することは前回同様「必要なものだけ」、「安全・安心なもの」、「安いもの」。
- 将来に対する不安は、「自分や家族の健康」、「収入」が引き続き上位。
- 期待する施策は「年金水準の維持」が1位、以下「医療費負担の抑制」、「減税」の順で前回と同様。
- 利用したい商品・サービスとしては「国内旅行」の人气が引き続き最も高い。

1. 暮らしの満足度 — 不満割合が4割超に増加 —

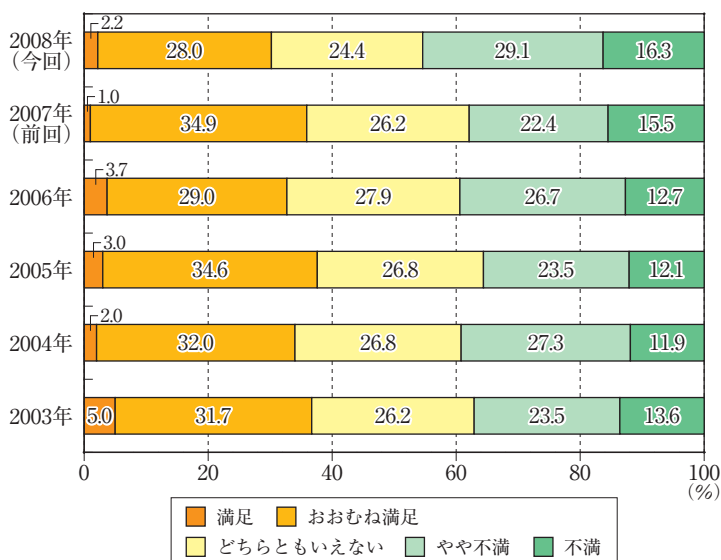
現在の暮らしに対する満足度を全体的にみると、前回まで最多であった「おおむね満足」は前回（34.9%）より6.9ポイント減少して28.0%となったのに対し、「やや不満」が前回（22.4%）から6.7ポイント増加して29.1%と最も多くなった。また「不満」の割合も0.8ポイント増加して16.3%で、「やや不満」と合わせた不満割合は45.4%となり初めて4割を超えた。一方、「満足」の割合は1.2ポイントの微増で2.2%となったものの、「おおむね満足」と合わせた満足割合は30.2%で過去最低となった（図表1）。

こうしたことから、満足割合から不満割合を差し引いたDIは前回比13.2ポイント低下の△15.2とこれも過去最低となり、従来の傾向と比べてかなり低い水準ともなっている（図表2）。

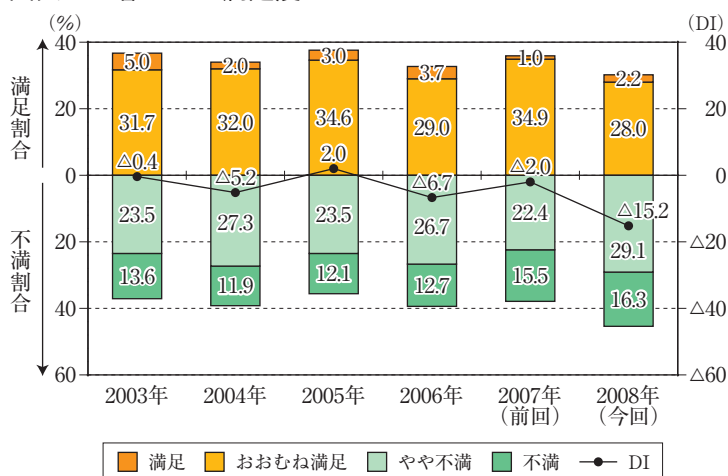
世帯主の年代別にDIをみると、「30歳代」が前回の△1.8から△0.2へとわずかに改善を示した以外は各年代で後退した。なかでも「50歳代」では15.7ポイント低下して△18.7、「60歳以上」では17.2ポイント低下して△20.9となるなど、年齢の高い世代でのDI悪化幅が大きい。

世帯年収別にみると年収とDIがほぼ正の相関を示しており、そのうちDIがプラス（満足割合が不満割合を上回る）となっているのは700万円以上の世帯に限られてい

図表1 暮らしの満足度



図表2 暮らしの満足度DI



図表3 暮らしの満足度（属性別）

属性項目	満足割合 (%)	不満割合 (%)	DI	
			今回	前回
全 体	30.2	45.4	△ 15.2	△ 2.0
年 代 別				
20 歳 代（参考）	25.0	58.3	△ 33.3	12.0
30 歳 代	39.5	39.7	△ 0.2	△ 1.8
40 歳 代	31.1	38.9	△ 7.8	△ 1.3
50 歳 代	30.4	49.1	△ 18.7	△ 3.0
60 歳 以上	26.6	47.5	△ 20.9	△ 3.7
年 収 別				
300万円未満	17.0	63.4	△ 46.4	△ 42.1
300～500万円未満	27.8	48.4	△ 20.6	△ 4.3
500～700万円未満	32.9	35.7	△ 2.8	18.5
700～1,000万円未満	47.3	21.1	26.2	43.8
1,000万円以上	78.6	7.1	71.5	68.6

る（前回は500万円以上の世帯でDIがプラスであった）。前回比では大方の層で悪化しているが、なかでも「500～700万円未満」の世帯では前回の18.5から21.3ポイント低下の△2.8とマイナスに転じた（図表3）。

2. 家計収支の推移

1) 家計収入 — 家計収入DIの前回比マイナスが続く —

家計収入を前回と比較すると、図表4 家計収入の推移

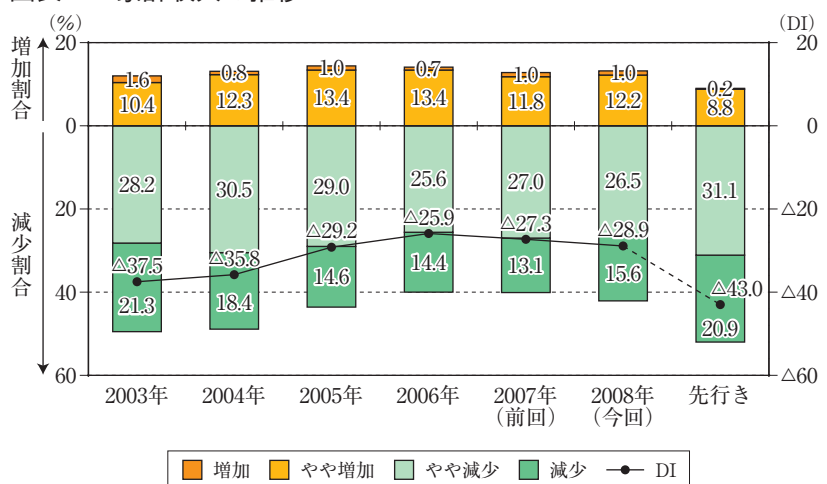
1年前と比べた増加割合（「増加」1.0%と「やや増加」12.2%の合計）が13.2%と前回（12.8%）比はほぼ横這いになったのに対し、減少割合（「減少」15.6%と「やや減少」26.5%の合計）は42.1%（前回40.1%）とやや増加した。

この結果、家計収入DIは△28.9と引き続き前回比マイナス

となった。また先行きについても△43.0と一層慎重な見方である（図表4）。

家計収入DIを年代別にみると、前回と比べて上昇したのは「40歳代」（前回△21.3→今回△14.6）と「50歳代」（△33.6→△32.8）。その他の年代では低下し、また全ての年代でDIがマイナスとなった。見通しについては、「30歳代」でほぼ横這い、それ以外の年代では大幅な低下との見方である。

世帯年収別にみると、「300～500万円未満」（△35.0→△28.0）、「1,000万円以上」（6.3→7.2）で上昇。その他の層では低下しており、なかでも「300万円未満」（△38.6→△49.6）では11.0ポイントの低下となっている。先行きについては慎重な見方が強く、全ての層で今回よりも低下とみている（図表5）。



図表5 家計収入DIの推移

属性項目		前回	今回	先行き
全 体		△ 27.3	△ 28.9	△ 43.0
年代別	20 歳 代 (参考)	0.0	△ 8.3	△ 16.6
	30 歳 代	5.4	△ 3.8	△ 3.7
	40 歳 代	△ 21.3	△ 14.6	△ 28.9
	50 歳 代	△ 33.6	△ 32.8	△ 47.8
	60 歳 以上	△ 42.4	△ 45.8	△ 65.0
年収別	300万円未満	△ 38.6	△ 49.6	△ 56.6
	300～500万円未満	△ 35.0	△ 28.0	△ 45.0
	500～700万円未満	△ 6.8	△ 14.1	△ 35.2
	700～1,000万円未満	△ 18.7	△ 21.1	△ 28.6
	1,000万円以上	6.3	7.2	△ 7.1

2) 家計支出 — 支出増加に転じる —

家計支出について、1年前と比べた増加割合（「増加」20.3%と「やや増加」42.1%の合計）は62.4%を占め、減少割合（「減少」3.4%と「やや減少」8.3%の合計）は11.7%となった。前回、そ

れまでの傾向から反して増加割合が低下したが、今回は以前のトレンド同様に増加割合が上昇という結果となった。

こうしたことから、前回低下した家計支出DIも50.7と前回比10.2ポイントの大幅な上昇となり、家計支出がこの一年で再び増加に転じたことがうかがえる。

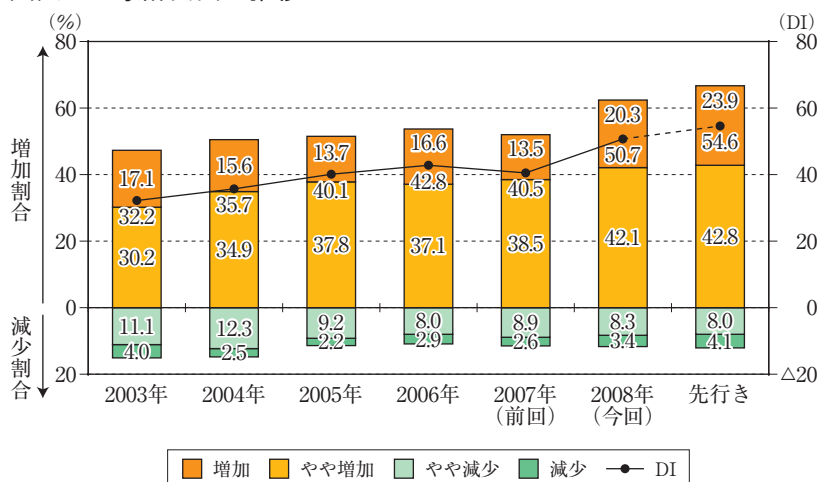
先行きも54.6と現状を3.9ポイント

ト上回るもので、引き続き支出増加の傾向が強まるとの見方である（図表6）。

家計支出DIを年代別にみると、いずれも上昇。なかでも「30歳代」では前回の60.1から21.0ポイント上昇して81.1とかなり高い水準に達している。今後についても、いずれの年代においても今回より上昇を見込んでいる。

世帯年収別にみると、今回DIが低下したのは「300万円未満」（42.9→33.8）と「1,000万円以上」（31.3→21.5）で、それ以外の層では上昇。今後については「500～700万円未満」で1.7ポイントの低下を見込むが、それ以外では上昇との見通し（図表7）。

図表6 家計支出の推移



図表7 家計支出DIの推移（属性別）

属性項目		前回	今回	先行き
全 体		40.5	50.7	54.6
年 代 別	20 歳 代 (参考)	55.5	16.7	41.8
	30 歳 代	60.1	81.1	86.8
	40 歳 代	54.8	62.6	68.1
	50 歳 代	29.0	42.9	45.3
	60 歳 以 上	30.3	40.9	42.3
年 収 別	300万円未満	42.9	33.8	39.9
	300～500万円未満	37.6	58.0	61.1
	500～700万円未満	46.7	58.4	56.7
	700～1,000万円未満	40.6	63.2	66.5
	1,000万円以上	31.3	21.5	42.9

3) 費目別の支出 — 食料品費のDIが急上昇 —

家計支出DIを費目別にみると、前回比プラスとなった費目とマイナスになった費目が混在しているなかで、従来比較的変動の少なかった「食料品費」（前回14.4→今回40.9→見通し42.0）が26.5ポイントの大幅な上昇となったのが目につく。その他には「水道光熱費」（13.8→33.6→36.7）が19.8ポイントの上昇、「交通費」（21.8→35.6→39.7）が13.8ポイントの上昇と、それぞれ2桁の上昇幅となっている。半面、前回よりも低下しているのは耐久消費財（5.7→△1.9→△0.2）、「教養費」（0.5→△5.1→△8.2）、被服費（△22.3→△27.6→△24.5）などで、低下幅はいずれも小幅となっている（図表8）。

図表8 費目別家計支出DI

項 目	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年 (前回)	2008年 (今回)	先行き
食料品費	9.0	14.1	13.8	18.7	14.4	40.9	42.0
外食費	△ 38.4	△ 29.9	△ 30.2	△ 27.8	△ 29.3	△ 26.9	△ 40.8
被服費	△ 26.7	△ 26.2	△ 28.6	△ 25.8	△ 22.3	△ 27.6	△ 24.5
住居費	5.7	8.9	5.0	6.8	10.1	11.4	12.4
教育費	12.0	12.5	9.8	16.7	10.8	12.0	13.6
保険・医療費	34.2	39.2	38.2	41.2	33.6	39.0	55.7
交通費	8.7	16.4	18.6	27.0	21.8	35.6	39.7
レジャー・娯楽費	△ 34.2	△ 34.7	△ 29.4	△ 28.9	△ 32.2	△ 34.4	△ 40.9
交際費・小遣い	△ 20.6	△ 17.4	△ 17.9	△ 19.8	△ 19.4	△ 22.5	△ 34.9
通信費	24.8	24.6	16.7	20.2	17.9	16.4	11.6
水道光熱費	16.5	20.4	14.9	27.4	13.8	33.6	36.7
教養費	△ 0.7	0.6	△ 7.6	2.3	0.5	△ 5.1	△ 8.2
習い事	△ 4.2	0.8	0.3	△ 1.9	△ 11.1	△ 14.4	△ 19.4
耐久消費財	△ 10.9	△ 1.1	△ 1.3	1.0	5.7	△ 1.9	△ 0.2
預貯金	△ 56.4	△ 53.0	△ 50.1	△ 57.6	△ 49.3	△ 60.6	△ 66.6
ローン返済額	6.5	0.3	1.1	5.0	△ 0.3	7.3	△ 0.3

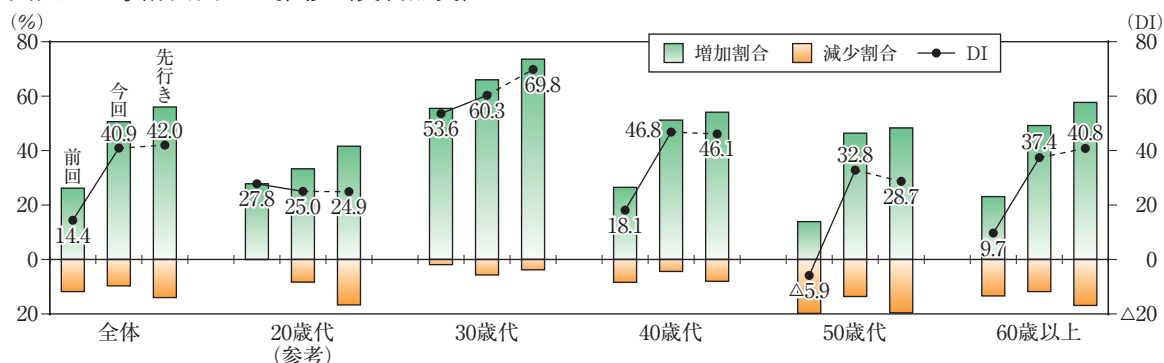
次に、いくつかの費目についてDIを詳しくみてみよう。

①食料品費

食料品費の支出DIは前回の14.4から今回40.9と大幅に上昇、最もDIの高い費目となった。また先行きも42.0と上昇の見通しで、各種食品小売価格の上昇を背景とした支出増加への警戒感が表れている。

年代別にみると、いずれも大きく上昇。先行きの見通しについては年代によりやや差があり、「30歳代」と「60歳以上」では引き続き上昇傾向とみるが、40～50歳代では横這いかやや低下となっている（図表9）。

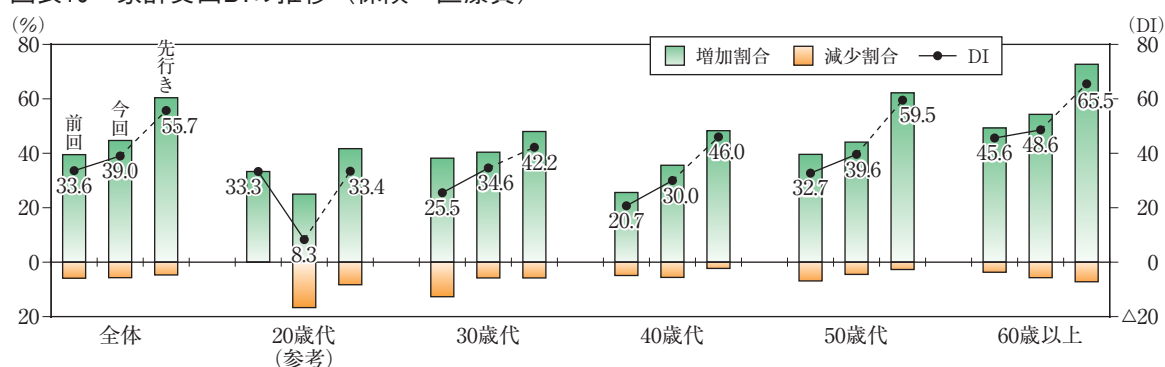
図表9 家計支出DIの推移（食料品費）



②保険・医療費

保険・医療費の支出DIは前回の33.6から今回39.0へ5.4ポイント上昇。前回までは最もDIの高い費目であったが、今回は食料品費に次ぐ2位となった。もっとも、先行きについてはさらに上昇して食料品費を上回る55.7の見通しで、この分野の支出増加に対する警戒感は引き続き強い。年代別にみると、いずれも今回・先行きともDIは上昇傾向を示している（図表10）。

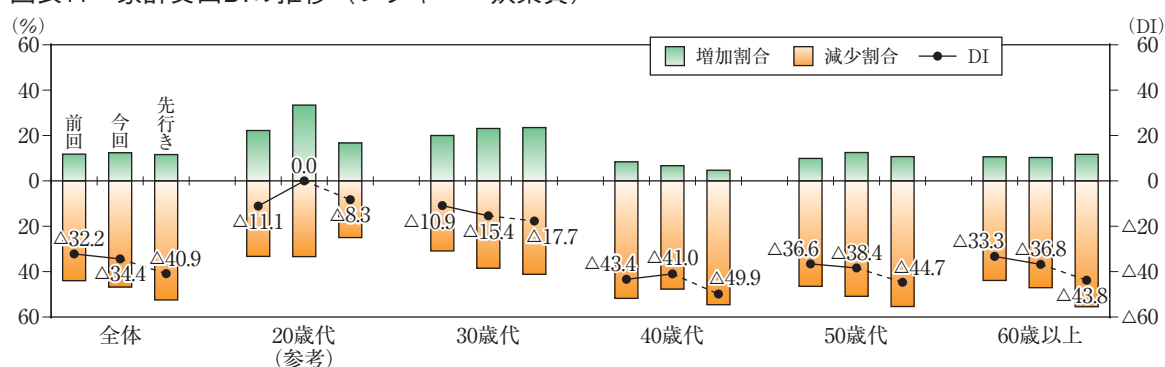
図表10 家計支出DIの推移（保険・医療費）



③レジャー・娯楽費

レジャー・娯楽費の支出DIは前回の△32.2から今回△34.4とやや低下。もともと若い年代ほどレジャー・娯楽費支出への意欲が高いという傾向にあり、今回も「30歳代」とそれより上の世代とではDIの水準に差がみられる。とはいえ「30歳代」でもマイナス圏にあり、また先行きについてはいずれの年代においても低下見通しとなっており、レジャー・娯楽への支出は総じて引き続き抑制傾向にある（図表11）。

図表11 家計支出DIの推移（レジャー・娯楽費）



3. 今後の暮らし向き — 7割近くが暮らし向き悪化を予想 —

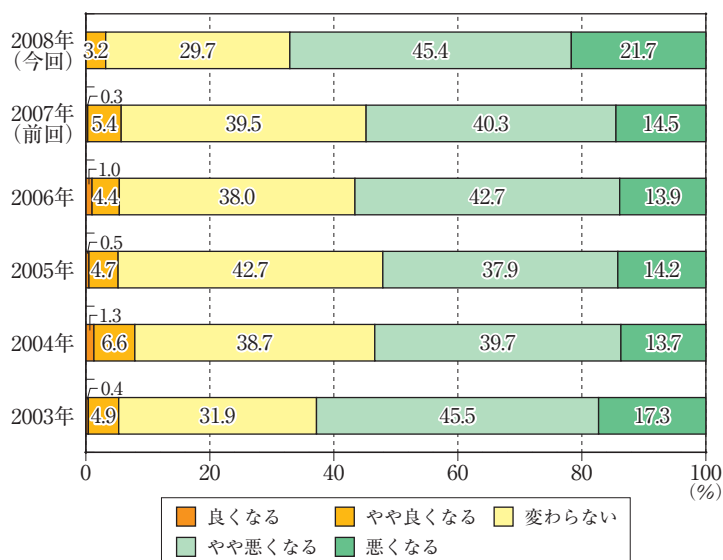
今後の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「良くなる」という回答はゼロ、「やや良くなる」は3.2%で、合計した良くなる割合（3.2%）は本調査において最も低いものとなった。一方で「悪くなる」は21.7%と初めて20%を超え、「やや悪くなる」（45.4%）も前回は5.1ポイント上回るなど今後の暮らし向きを悪化とみる向きが増加しており、これらを合計した悪くなる割合は前回（54.8%）を12.3ポイント上回る67.1%となった（図表12）。

この結果、今後の暮らし向きについてのDIは初めて△60を下回る△63.9と、過去最低となった（図表13）。

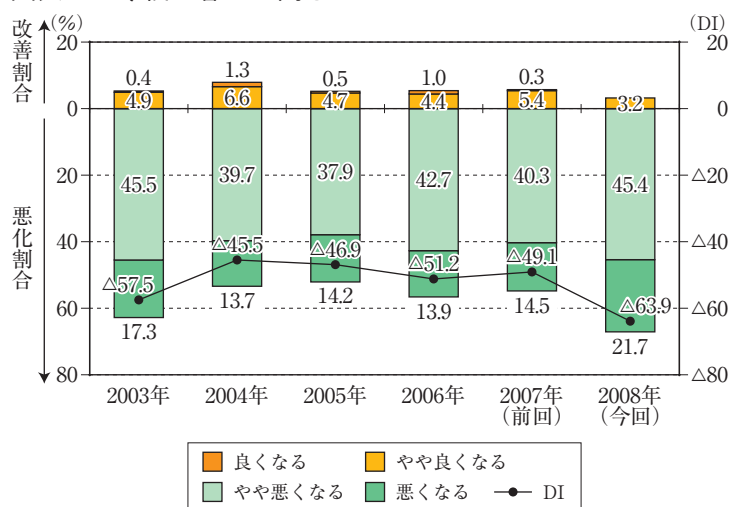
DIを年代別にみると、前回比ではいずれも悪化しており、なかでも「50歳代」では前回の△41.0から△62.0へと21ポイントも低下しており、悪化幅が際立っている。

世帯年収別にみると、年代別同様全ての層で前回比悪化。年収1,000万円未満の層では前回比10ポイント以上の悪化で、DIも△60～△70程度となっている。ただし「1,000万円以上」の層では前回と比べて悪化幅が5.4ポイントと比較的小さく、DIも△42.9にとどまっている（図表14）。

図表12 今後の暮らし向き



図表13 今後の暮らし向きDI



図表14 今後の暮らし向き（属性別）

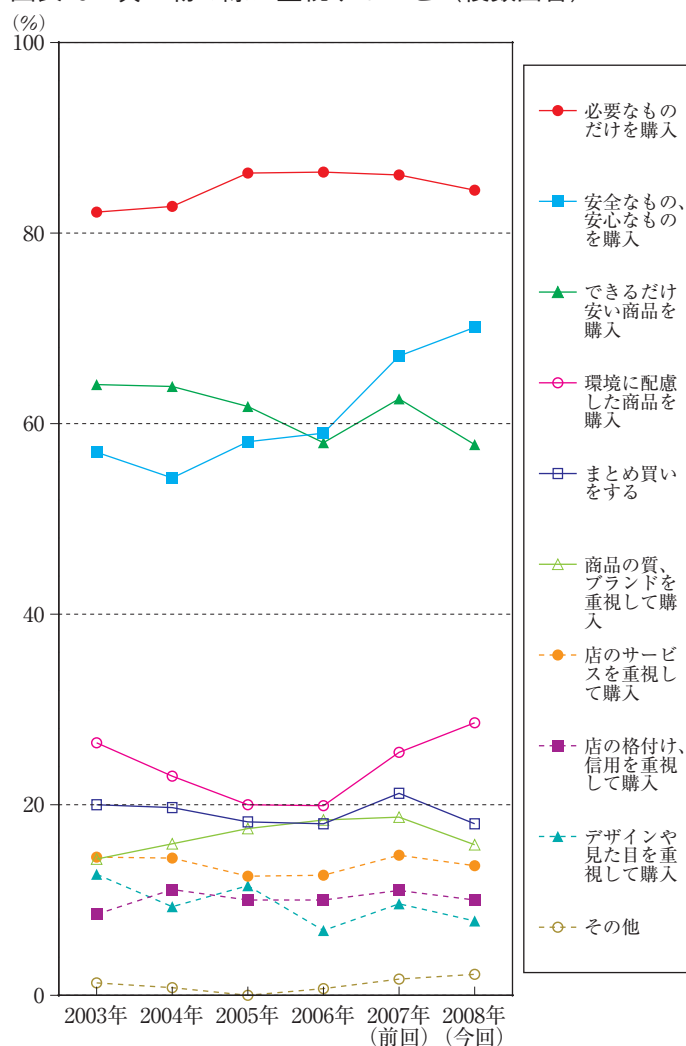
属性項目	改善割合(%)	悪化割合(%)	DI	
			今回	前回
全 体	3.2	66.8	△ 63.6	△ 49.1
年 代 別	20 歳 代（参考）	8.3	△ 33.3	△ 22.3
	30 歳 代	3.8	△ 49.0	△ 40.7
	40 歳 代	3.4	△ 67.4	△ 51.8
	50 歳 代	4.4	△ 62.0	△ 41.0
	60 歳 以 上	1.4	△ 71.5	△ 60.4
年 収 別	300万円未満	2.7	△ 66.3	△ 54.5
	300～500万円未満	2.6	△ 68.3	△ 54.3
	500～700万円未満	5.7	△ 60.0	△ 33.9
	700～1,000万円未満	3.5	△ 59.7	△ 44.1
	1,000万円以上	—	△ 42.9	△ 37.5

4. 買い物の際に重視すること — 8割以上が「必要なものだけを購入」—

買い物の際に重視することを尋ねたところ、「必要なものだけを購入」が84.5%と引き続き最も多く、8割を超えている。次点は「安全なもの、安心なものを購入」(70.1%)で、「安全・安心」が重視される傾向が引き続き強まっており、今回初めて7割を超えた。その半面、3位の「できるだけ安い商品を購入」(57.8%)はやや回答割合が低下、前回は6割を超えていたが再び5割台となった(図表15)。

年代別、世帯年収別いずれからみても、各年代・各層で「必要なものだけを購入」が1位となっており、必要なものを見極めて購入するという消費行動が定着しているようである(図表16)。

図表15 買い物の際に重視すること(複数回答)



図表16 買い物の際に重視すること(属性別、複数回答)

(%)

属性項目	必要なものだけを 購入	安全なもの、 安心なものを 購入	できるだけ 安い商品 を購入	環境に 配慮 した商品 を購入	まとめ 買いを する	商品の質、 ブランドを 重視 して購入	店のサ ービス を重視 して購 入	店の格 付け、 信用を 重視し て購入	デザ インを 重視し て購入	その他
全 体	84.5	70.1	57.8	28.6	18.0	15.8	13.6	10.0	7.8	2.2
年 代 別										
20歳代(参考)	83.3	16.7	66.7	8.3	16.7	25.0	—	—	33.3	—
30歳代	73.6	47.2	62.3	13.2	24.5	17.0	15.1	3.8	9.4	—
40歳代	84.4	67.8	66.7	27.8	16.7	18.9	8.9	7.8	4.4	—
50歳代	84.1	78.8	52.2	29.2	22.1	15.9	11.5	12.4	6.2	1.8
60歳以上	88.9	77.8	54.2	36.1	13.2	12.5	18.8	12.5	8.3	4.9
年 収 別										
300万円未満	85.8	72.6	67.3	29.2	18.6	9.7	13.3	9.7	6.2	2.7
300～500万円未満	86.1	66.9	58.9	22.5	15.9	12.6	11.9	9.3	11.3	2.0
500～700万円未満	80.3	74.6	56.3	25.4	16.9	25.4	15.5	8.5	5.6	—
700～1,000万円未満	82.5	70.2	47.4	43.9	22.8	17.5	12.3	14.0	7.0	5.3
1,000万円以上	78.6	78.6	28.6	42.9	14.3	50.0	21.4	14.3	—	—

5. 将来に対する不安 — 97.8%が将来に不安を感じる —

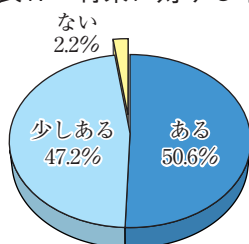
将来に対する不安については、「ある」(50.6%)と「少しある」(47.2%)の合計が97.8%と引き続き大勢を占めた(図表17)。

不安を感じる要素をみると、最も回答比率が高いのは「自分や家族の健康」(69.3%)で、前回まで最多であった「老後の収入」(67.8%)は今回2番目に多い回答となった。以下、「収入についての不安」(60.6%)、「家計支出の増加」(50.6%)といった順である(図表18)。

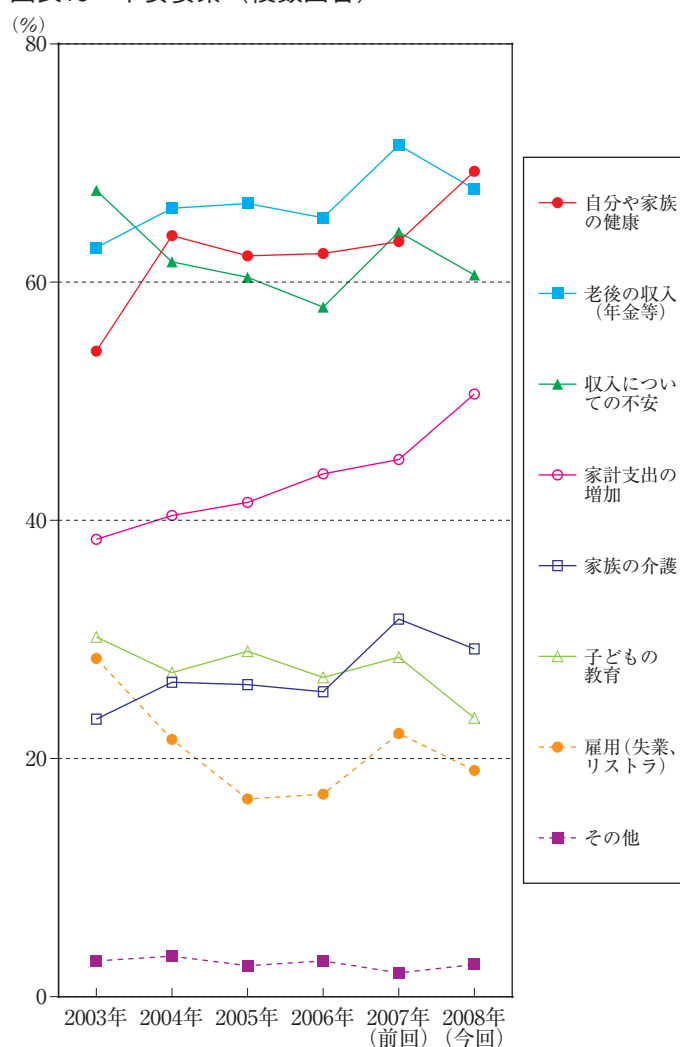
年代別にみると、「30歳代」では「子どもの教育」が、「50歳代」では「老後の収入」がそれぞれ最多となっている。

世帯年収別にみると、多くの層で「自分や家族の健康」が1位であるが、「700～1,000万円未満」では「老後の収入」に対する不安が最も多くなっている(図表19)。

図表17 将来に対する不安



図表18 不安要素（複数回答）



図表19 不安要素（属性別、複数回答）

属性項目		自分や家族の健康	老後の収入	収入についての不安	家計支出の増加	家族の介護	子どもの教育	雇用	その他
全 体		69.3	67.8	60.6	50.6	29.2	23.4	19.0	2.7
年 代 別	20 歳 代 (参考)	58.3	33.3	66.7	66.7	16.7	25.0	33.3	—
	30 歳 代	42.3	40.4	63.5	71.2	15.4	73.1	23.1	3.8
	40 歳 代	69.0	64.4	67.8	62.1	34.5	43.7	28.7	1.1
	50 歳 代	68.5	81.1	70.3	36.9	29.7	11.7	27.0	1.8
	60 歳 以上	81.3	72.7	46.8	45.3	31.7	1.4	3.6	4.3
年 収 別	300万円未満	74.8	70.3	67.6	44.1	28.8	12.6	22.5	2.7
	300～500万円未満	64.9	64.2	58.1	56.1	27.7	23.6	15.5	2.7
	500～700万円未満	73.5	67.6	63.2	52.9	30.9	32.4	22.1	2.9
	700～1,000万円未満	64.3	73.2	51.8	51.8	37.5	33.9	21.4	3.6
	1,000万円以上	75.0	66.7	50.0	41.7	8.3	25.0	—	—

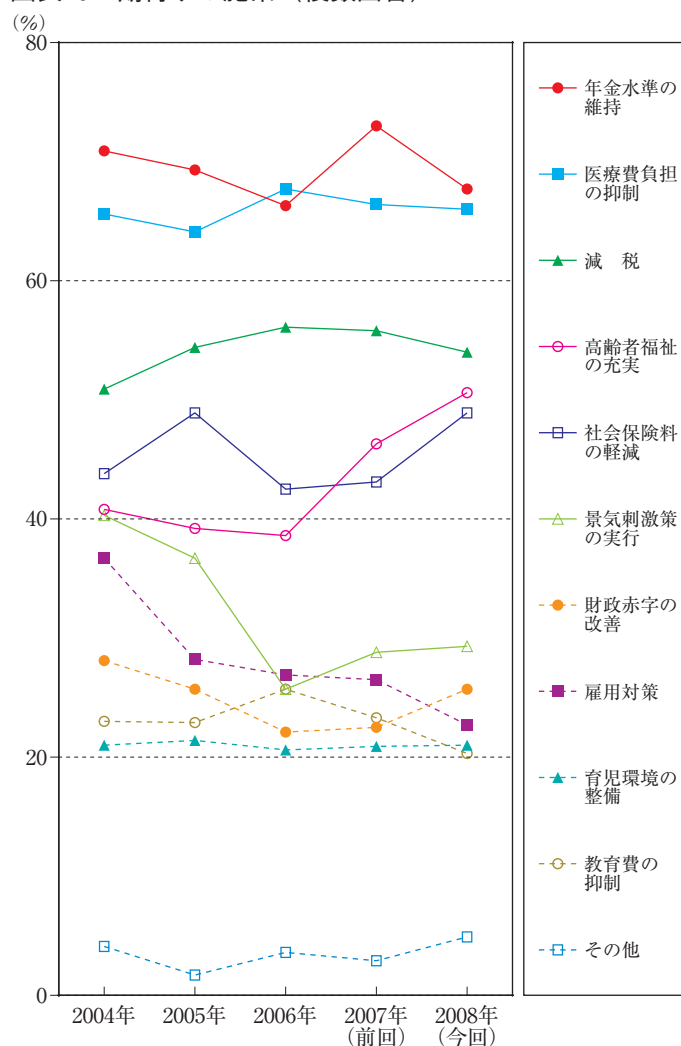
6. 期待する施策 — 最も多いのは引き続き「年金水準の維持」 —

行政に期待する施策を尋ねたところ、「年金水準の維持」(67.7%)が前回に引き続き最多で、以下「医療費負担の抑制」(66.0%)、「減税」(54.0%)、「高齢者福祉の充実」(50.6%)、「社会保険料の軽減」(48.9%)と続き、こうした上位回答の順位は前回と同じである(図表20)。

年代別にみると、「30歳代」では「減税」が最も多く、「40歳代」以上の世代では「年金水準の維持」が最多となっている。

世帯年収別にみると、「1,000万円以上」の層で「医療費負担の抑制」が1位となっている以外は、各層で「年金水準の維持」への期待が最も強い(図表21)。

図表20 期待する施策(複数回答)



図表21 期待する施策(属性別、複数回答)

(%)

属性項目	の年金維持水準	担医の療抑制費制負	減税	祉高の齢充者実福	料社会の会保減除	策景の気実刺行激	の財政改善赤字	雇用対策	の育整児備環境	抑教制育費の	その他
全体	67.7	66.0	54.0	50.6	48.9	29.3	25.7	22.7	21.0	20.3	4.9
年代別											
20歳代(参考)	41.7	50.0	75.0	25.0	41.7	25.0	25.0	50.0	25.0	33.3	8.3
30歳代	26.4	43.4	52.8	24.5	34.0	30.2	28.3	22.6	49.1	49.1	1.9
40歳代	57.3	56.2	56.2	37.1	44.9	36.0	21.3	27.0	14.6	34.8	6.7
50歳代	78.6	73.2	57.1	57.1	51.8	32.1	23.2	23.2	17.0	10.7	3.6
60歳以上	83.2	76.2	49.0	65.7	55.2	23.1	29.4	17.5	17.5	7.0	5.6
年収別											
300万円未満	75.2	73.5	58.4	61.1	52.2	27.4	25.7	28.3	19.5	13.3	3.5
300~500万円未満	64.7	64.7	56.7	48.7	50.0	28.7	23.3	18.7	24.0	23.3	5.3
500~700万円未満	65.2	60.9	52.2	39.1	43.5	33.3	23.2	21.7	13.0	27.5	5.8
700~1,000万円未満	68.4	56.1	40.4	52.6	47.4	28.1	31.6	24.6	22.8	22.8	5.3
1,000万円以上	57.1	78.6	42.9	35.7	42.9	28.6	35.7	14.3	42.9	7.1	7.1

7. 利用したい商品・サービス — 最も多いのは引き続き「国内旅行」 —

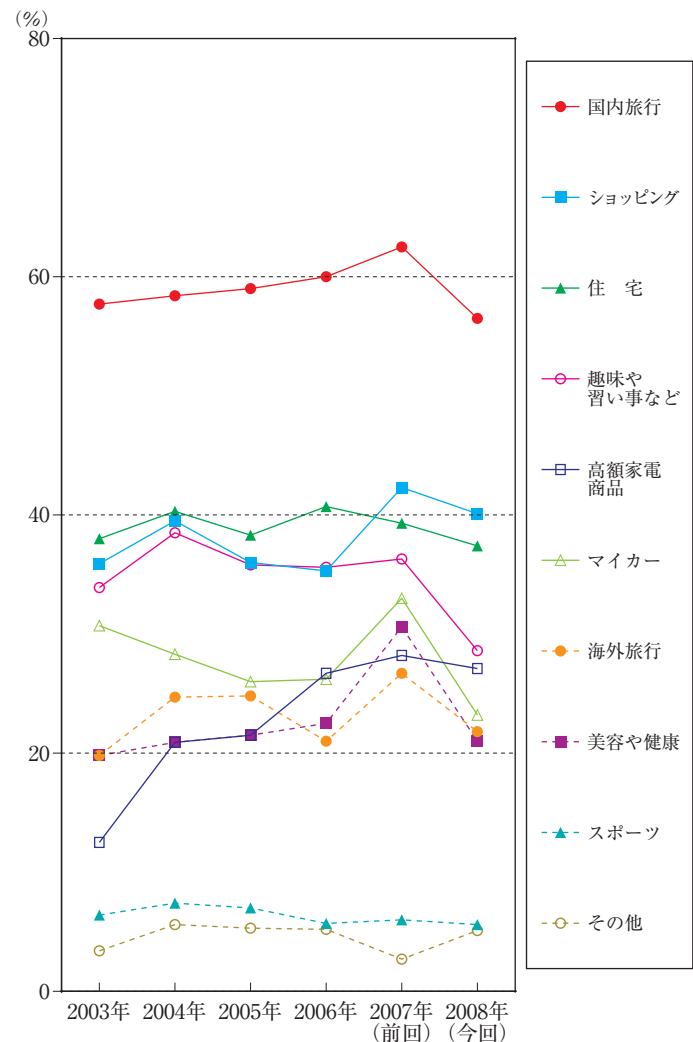
家計にゆとりがでた場合に利用したい商品・サービスについて尋ねたところ、「国内旅行」が56.5%と引き続き最も多かった。以下4位までは前回と同順で「ショッピング」(40.1%)、「住宅」(37.4%)、「趣味や習い事など」(28.6%)と続く。なお、こうした上位の項目を含め、総じて前回よりも回答割合が低下しているのが、今回調査では特徴的である(図表22)。

年代別にみると、「40歳代」では「ショッピング」が最も多くなっており、他の年代では「国内旅行」がトップ。

世帯年収別では、全ての層で「国内旅行」が過半数を占め最多となっている(図表23)。

(野邊 幸昌)

図表22 利用したい商品・サービス（複数回答）



図表23 利用したい商品・サービス（属性別、複数回答）

(%)

属性項目	国内旅行	ショッピング	住宅	趣味や習い事など	高額家電商品	マイカー	海外旅行	美容や健康	スポーツ	その他
全体	56.5	40.1	37.4	28.6	27.1	23.2	21.8	21.0	5.6	5.1
年代別										
20歳代(参考)	33.3	58.3	33.3	8.3	33.3	25.0	33.3	33.3	—	8.3
30歳代	54.7	52.8	41.5	41.5	28.3	24.5	17.0	18.9	7.5	7.5
40歳代	48.3	55.1	33.7	29.2	32.6	33.7	19.1	21.3	11.2	2.2
50歳代	58.4	31.0	45.1	19.5	25.7	26.5	17.7	23.9	4.4	8.8
60歳以上	62.7	31.7	32.4	32.4	23.9	13.4	27.5	18.3	2.8	2.8
年収別										
300万円未満	54.1	40.5	32.4	36.0	27.9	24.3	16.2	21.6	2.7	6.3
300～500万円未満	58.9	41.1	38.4	28.5	29.1	19.9	19.2	19.9	6.6	4.0
500～700万円未満	58.6	40.0	37.1	28.6	22.9	28.6	28.6	24.3	5.7	2.9
700～1,000万円未満	50.9	36.8	42.1	17.5	28.1	24.6	24.6	21.1	8.8	10.5
1,000万円以上	64.3	35.7	50.0	21.4	28.6	7.1	42.9	14.3	—	—